

國學院大學學術情報リポジトリ

国際研究フォーラム報告書2008～2013年度

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-04-15 キーワード (Ja): NDC9:160.4, NDC9:161.3, 宗教, 宗教学. 宗教思想 キーワード (En): 作成者: 井上, 順孝 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001576

刊行にあたって

井上 順孝

國學院大學日本文化研究所は、1955年の設立以来国際的な視点からの日本文化の研究に関わってきた。2007年に改組があり、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所となったが、国際的視点からの研究は継続している。本書に取めたのは2008年度から2013年度までに、日本文化研究所が主催してきた国際研究フォーラムの紹介である。

この間の国際研究フォーラムは、テーマでみていくと宗教文化教育を主軸にしながら、インターネットに代表される情報化の問題、イスラームと日本社会の向かい合い、文学や美術における宗教文化、日本に住む外国人の宗教的戒律の問題といった、まさに我々が日々直面するような問題を扱ってきている。毎回の会議は國學院大學学術メディアセンターの常磐松ホールで開催されたが、このホールは国際会議が開催できるように同時通訳のブースと設備が整っている。非常に整った環境のもとで開催することができた。設計段階でこうした設備を整えておいて欲しいという強い希望を出していたので、それを有効に活用できる機会が重ねられていることは、個人的にも嬉しい思いを抱いている。

2008年度に「ウェブ経由の神道・日本宗教—インターネット時代の宗教文化教育のゆくえ—」が開催されているが、このテーマは、2002年度から2006年度まで5年間の事業として採択された21世紀 COE プログラムによる国際シンポジウムとの連続性も意識されていた。COE プログラムは「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」という事業名であった。その第三グループの「神道・日本文化の情報発信と現状の研究グループ」では毎年神道に関わる国際会議を開催し、外国人研究者を招聘してかなり濃密な議論を行った。それぞれの会議の報告書は冊子として刊行されている。テーマだけ示すと、「(第1回) 各国における神道研究の現状と課題」、「(第2回) 〈神道〉はどう翻訳されているか」、「(第3回) 神道の連続と非連続」、「(第4回) オンライン時代の神道研究と教育」、「(第5回) 神道研究の国際的ネットワーク形成」である。

2009年度は映画と宗教文化をテーマにとりあげたが、この報告書は『映画の中の宗教文化』として2010年2月に科研費（研究テーマ「大学における宗教文化教育の実質化を図るシステム構築」）の成果として刊行されたので、本書には収録されていない。2010年度にはイスラームと向かい合う日本社会が課題とすべきことをとりあげた。この年の公開講演会もイスラームをテーマにしたもので、京都大学教授小杉泰氏に「現代イスラームと日本社会」という講演を行ってもらった。日本に住むムスリムはまだ人口の0.1%にも達しない程度であるが、宗教文化教育を考える上で、イスラーム文化の理解と具体的な対応法を真剣に考慮すべき段階になったと考えてのことである。

2011年度はデジタル技術が宗教文化の授業にもたらしつつある影響をテーマとした。デジタル技術の発展は、今まで授業等でなかなか用いにくかった映像が、かなり簡単に採り入れることを容易にしている。まだそれは十分に活用されているとは言い難いにしても、映像の与えるインパクトゆえに、この事態にどう対処するかは正面から扱うべき事柄と考えたのである。2012年度は文学や美術といったものを宗教文化教育の教材として考えていくときの対象や方法などを取り上げた。ヨーロッパの絵画などは、キリスト教の知識なくしては十分理解が及ばないものが多く、豊富な材料がある。情報化とグローバル化が進行する時代には、こうしたテーマはグローバルな比較研究がとて魅力あるものになってくるはずである。

2013年9月の国際研究フォーラムは日本宗教学会との共催で開かれた。國學院大學が同学会の第72回学術大会の開催校となったので、その折に開かれた公開学術講演会を共催としたものである。テーマは「ネットワークする宗教研究」で、ハーバード大学マイケル・ヴィツェル氏、総合研究大学院大学教授長谷川眞理子氏、京都大学教授芦名定道氏の3人の講演がなされた。この講演の内容は翌年『21世紀の宗教研究—脳科学・進化生物学と宗教学の接点』（井上順孝編、平凡社）として刊行されたので、本書では紹介がなされていない。

2013年度は常磐松ホールではなく、学術メディアセンター5階の会議室を用いての、やや小規模な国際会議も企画された。日本に住む外国人の増加に目を配り、日本での日常生活における戒律の問題を扱った。日本に住む外国人に発題をお願いした。

ここで紹介した研究フォーラム、そして2013年の講演会は、すべてスカイパーフェクTVの「精神文化の時間」で一時間番組として放映された。精神文化映像社社長の並川汎氏のご厚意により制作が可能となったもので、貴重な映像記録を残せたことを感謝している。精神文化映像社自体は2013年で閉鎖となったが、同社のご厚意により、放映された映像の二次利用については了解を得ている。宗教文化教育に関心ある人たちが利用しやすい形態を考えているところである。

日本文化研究所としては、今後もこうした国際フォーラムを継続していく予定である。これらによって国際的な研究ネットワークの基盤ができ始めたので、それを活かした新しい企画も考えていきたい。

付記

2011年度から2014年度まで、日本文化研究所主催で開催された国際研究フォーラムは、科学研究費補助金基盤研究（B）「宗教文化教育の教材に関する総合研究」（代表者・井上順孝）との共催で行われた。したがって本書は同科研費による研究成果の一部でもある。